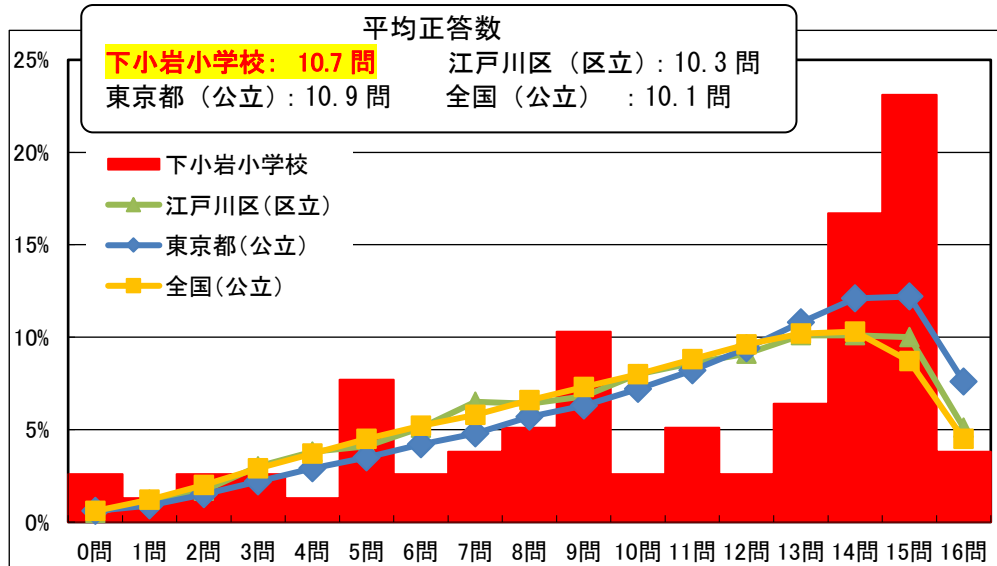


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 下小岩小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ← → 下位			
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
下小岩小学校	43.6	9.0	23.0	24.4
江戸川区(区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都(公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国(公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

【平均正答率の差】

下小岩小学校	67%
江戸川区(区立)	64%
東京都(公立)	68%
全国(公立)	63.4%
都との差	1ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

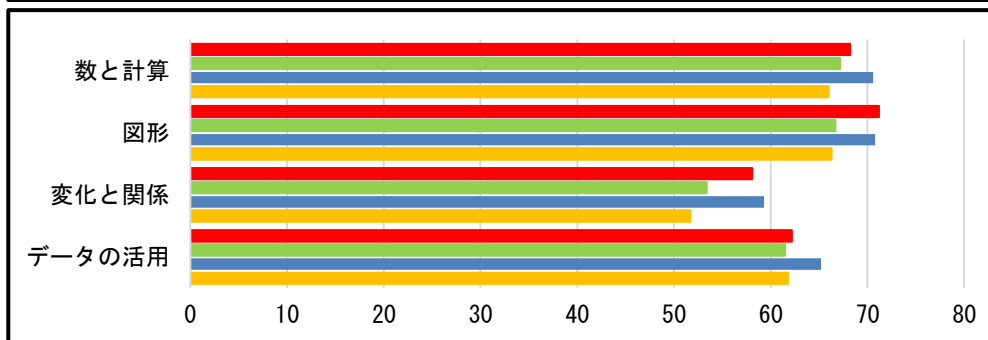
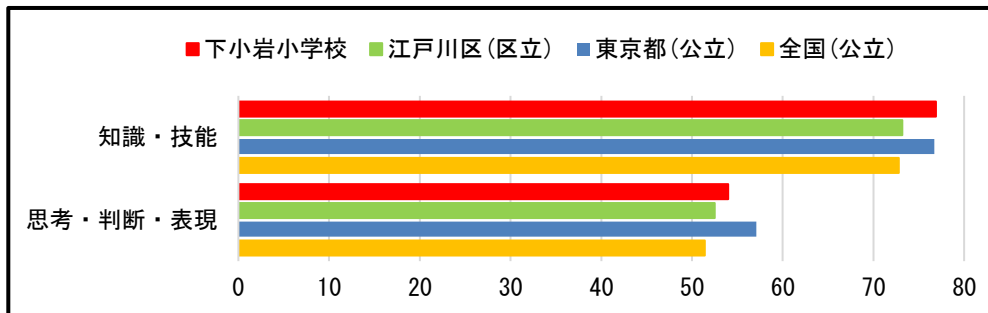
【分析結果】

各領域において、基礎的な問題に関する正答率は都の平均と同等、もしくは上回っている。しかし、弱点と見られる設問は「言葉と数を使って書きましょう。」という記述式の解答を求められる設問に対しては、正答率が都平均より6~9ポイント下回る特徴がある。

【授業改善】

数字や言葉を使って、考えの根拠を説明する設問に弱点が見られたため、普段の授業の中で、記述で回答する設問を意識的に増加させていく。特に今年度より活用している「アイテム算数」の中から同様の問題をピックアップして取り組ませる。

「領域別」の結果



四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。